

2026年10月28日

関係各位

野村ホールディングス株式会社

コード番号8604

東証プライム市場・名証プレミア市場

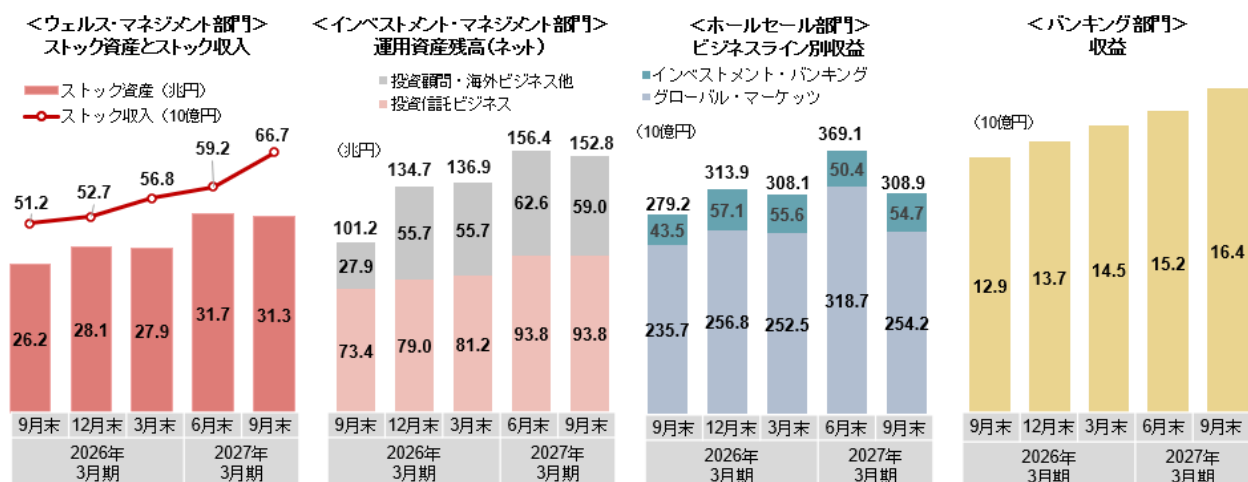
奥田グループCEO決算コメントおよびハイライト (2027年3月期第2四半期 連結決算)

野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:奥田健太郎、以下「当社」)は本日、2027年3月期の上半期(2026年4-9月、以下「当上半期」)および第2四半期(2026年7-9月、以下「当四半期」)連結決算を発表しました。

グループCEOの奥田健太郎は以下のように述べています。

「これまで進めてきたビジネスモデル変革の成果が表れ、当上半期のROEは13.3%、主要4部門合計の税前利益は前年同期比50%増となりました。ストック型ビジネスの拡大を背景に、安定収益は前年同期比で約1.6倍となりました。ホールセール部門でも収益源の多様化が進むなど、収益基盤の強化が着実に進展しています。

当四半期の各部門の業績をみると、ウェルス・マネジメント部門では、包括的な資産管理ビジネスが進展する中、ストック資産の純増額は過去最高の約7,500億円となりました。ストック収入も過去最高を更新し、ストック収入費用カバー率は79%に上昇しました。インベストメント・マネジメント部門では、新規設定ファンドやバランス型ファンドを中心に資金流入が続き、運用資産残高は高水準を維持しました。ホールセール部門のグローバル・マーケットでは、エクイティが引き続き高水準の収益を確保しました。インベストメント・バンキングは、国内外で多様なコーポレートアクションや資金調達を支援し、収益は前年同期比26%増となりました。バンキング部門では、各種残高の拡大や金利上昇が寄与し、増収増益となりました。預金スイープサービスの契約件数と預金残高は順調に拡大し、ウェルス・マネジメント部門との連携も深まりました。2030年に向けた経営ビジョン『Reaching for Sustainable Growth』の実現に向けて、各部門の収益拡大と部門間連携を進めるとともに、構造改革と規律ある資本配分を通じて、持続的な企業価値の向上に取り組んでまいります」



決算ハイライト

<当上半期>

- 税前利益は3,595億円、EPSは82.97円、ROEは13.3%でした。
- 2026年9月末日を基準日とする配当金(支払開始日:2026年12月1日)は、1株当たり35円です。

	2027年3月期上半期	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	12,942億円	+25%
税前利益(損失)	3,595億円	+21%
当期純利益(損失)	2,493億円	+27%

- 全部門が増益に貢献し、主要4部門合計の税前利益は5割増を達成しました。
- スtock型ビジネスの拡大を背景に、安定収益は前年同期比で約1.6倍に成長しました。
- 構造改革の成果が表れ、ROEは着実に改善しました。

	収益合計(金融費用控除後)		税前利益(損失)	
	当上半期	前年同期比	当上半期	前年同期比
ウェルス・ マネジメント部門	2,869億円	+29%	1,367億円	+62%
インベストメント・ マネジメント部門	1,831億円	+64%	724億円	+39%
ホールセール部門	6,780億円	+26%	1,394億円	+47%
バンキング部門	316億円	+23%	80億円	+18%
合計	11,797億円	+31%	3,564億円	+50%

<当四半期>

全社

- 税前利益は1,480億円(前四半期比30%減)、当期純利益は1,037億円(同29%減)、EPSは34.61円、ROEは10.9%でした。
- 主要4部門の税前利益は1,434億円(同33%減)でした。
- 前四半期からは減収減益となるも収益・利益は堅調でした。
- ROEは、2四半期連続で2030年経営ビジョンの新目標10~12%+を達成しました。
- 不透明な市場環境下において中長期的な資産形成ニーズを着実に捉え、安定収益が拡大しました。

	当四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	6,075億円	-12%	+18%
税前利益(損失)	1,480億円	-30%	+8%
当期純利益(損失)	1,037億円	-29%	+13%

主要4部門

- ウェルス・マネジメント部門は、不透明な市場環境下でも高水準の業績を維持しました。資産管理ビジネスの進展を背景にストック資産純増は約7,500億円と過去最高を更新しました。ストック収入費用カバー率は79%に上昇し、業績の安定性はさらに向上しました。
- インベストメント・マネジメント部門は、新規設定ファンドやバランス型のファンドを中心に資金流入が継続、運用資産残高は高水準を維持し、事業収益は堅調に推移しました。
- ホールセール部門は、部門設立以来の好業績となった前四半期からは減収減益となりました。グローバル・マーケットは前四半期の反動で平準化するも、エクイティの収益は引き続き高水準となりました。インベストメント・バンキングは、主要プロダクトで好調なモメンタムを維持し、増収となりました。
- バンキング部門は、KPIの進捗と金利上昇が寄与し、貸出業務や信託・エージェント業務からの収入は堅調に推移しました。預金スイープサービスの契約件数、残高が順調に拡大し、顧客基盤と預金調達力が向上しました。

	収益合計(金融費用控除後)			税前利益(損失)		
	当四半期	前四半期比	前年同期比	当四半期	前四半期比	前年同期比
ウェルス・マネジメント部門	1,415億円	-3%	+22%	656億円	-8%	+44%
インベストメント・マネジメント部門	848億円	-14%	+39%	274億円	-39%	-11%
ホールセール部門	3,089億円	-16%	+11%	461億円	-51%	-13%
バンキング部門	164億円	+7%	+27%	44億円	+20%	+37%
合計	5,516億円	-12%	+18%	1,434億円	-33%	+8%

【ご参考】

[決算関連情報\(決算短信・説明資料\)](#)

2026年10月28日付ニュースリリース「[剰余金の配当に関するお知らせ](#)」

以上

詳細につきましては、[当社ホームページ](#)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2026年10月28日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、[当社ホームページ](#)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2027年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。